

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム いちえ	評価実施年月日	平成20年12月31日
評価実施構成員氏名	山根京子・三浦 賢治・安田健二・宮森理渚・池美千代・鈴木康平・上野真理子・宮崎富美枝・但野きよ美		
記録者氏名	山根京子・三浦 賢治	記録年月日	平成21年1月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所の理念があり、利用者一人ひとりにあったケアや、地域との関わりを大切にするように日々話し合っている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>住み慣れた地域の中で、その人らしさとは何か、日々のミーティングやカンファレンスで考えながら理念の実践に取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念はフローアに提示しており、家族の方などが来所した際に見られるようにしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常の挨拶や、ホーム内の行事に参加してもらえるように呼びかけている。</p>	○	<p>近隣の多くの方と関係を深めていけるよう、ボランティアや行事参加を呼びかけて、その機会を作っていく。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会や子供110番に入っている。地域のゴミ拾いやお祭りに参加して関わりを持っている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>いつでも見学や相談に来てもらえるように話をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己を振り返りながら自己評価を行い、外部評価に取り組むことで、日々を見直す機会になり、今後活かせるように取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に一度、活動の報告や今後の予定などを話して、地域の方の意見を聞く場として設けている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>新しい情報や参考資料がFAXで届くため、職員で目を通し日々のケアに活用している。また、制度的なことなど情報のやり取りなど確認しながら取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>勉強会を通し学ぶ機会を作り、必要時には法律事務所など他機関とも話し支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>学ぶ機会を作ると共に、日々職員間でケアの見直しを行ないサービス・ケアの向上につなげ、為虐待防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>ゆっくりと話す機会を設け、理解し合えるように努めている。また、その後も、心配なことがないか来所時に声をかけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設けたり、相談・苦情処理の仕方を重要事項説明書に図式で説明をしている。また、日々の関わりの中で入居者の思いをくみ取り、職員間で話し合いを設けている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月の家族への手紙や、体調不良時はその都度連絡している。年4回の広報誌による行事の様子や職員紹介、病院受診時の連絡報告など定期的に行なっている。金銭面も、御家族に領収書確認後サインを頂いており、遠方の家族にはお小遣い帳のコピーと領収書の郵送をして確認をいただいている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設けたり、相談・苦情処理の仕方を重要事項説明書に図式で説明をしている。また、面会時や電話連絡時などの関わりの中で家族の思いを受け入れるようにしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>話し合いができるよう、話しやすいよう提案を押し付けるのではなく、それぞれの意見を聞けるように努めている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>早番、遅番など入居者の状態やペースに合わせた勤務調整を行なっている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動は最小限にして、入居者と職員がなじみの関係を築けるよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	それぞれの職員経験に合わせた研修や、系列のグループホームや関わりのあるグループホーム同士での研修を行なっている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	清田区のグループホーム連絡会主催する勉強会や交流会に参加している。事業所内での職員の研修や、勉強会の参加など他事業所とも交流を持っている。また、他事業所との管理職研修会を2月に1度実施している。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	親睦会やユニットから離れてくつろげる場所を設けている。	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員個人の仕事に対する姿勢や努力を評価しながら、それぞれの役割を持って、やりがいを感じて働けるよう努めている。	○ 職員との定期的な個人面談を今後検討している。ゆっくりと話し合う機会を儲け、個人の目標設定をすることで、職員の意欲向上とスキルアップにつなげていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	本人と会う機会を持ち、十分に話す機会を作り、その後も電話連絡などで不安なことは無いかなど、顔見知りの関係を築くようにしている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	御家族の希望していることや、不安な思いを受け止めることができるよう、話し合う機会を作っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お話を聞きながら、必要としていることを見極めそれに応じて、病院、ケアマネジャーなど他機関との情報交換をとっている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前の見学や、本人の生活リズムに合わせるなど、新しい環境に少しでも馴染んでもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お話しが出来る方も出来ない方も、表情やしぐさから気持ちが伝わることも多く、そのサインに気づき感情を共にできるよう大切にしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族の意見や、ご本人に対する気持ち、どのように過ごして欲しいかなど電話や面会時に聞いて取り組んでいる。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入所前の本人の趣味や生活様子を御家族から聞いたり、面会や外出、外泊はいつでも希望に添えるようにしている。	○	徐々に状態が変わっていく本人や、それを受け止めることが辛い家族などのそれぞれの思いを理解しながら支援に努めていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族だけではなく、友人も面会に来ており電話や手紙のやりとりも本人の状態に合わせて行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士が言い争う場面もあるが、関係を遠ざけるのではなく良い関係が築けるように職員が間に入っている。又、入居者それぞれが出来ることに取り組んでいる。		入居者の年齢層にばらつきがあるが、その状況を理解しながらそれぞれの関係を今後も築いていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院中などは面会に行ったり、退所後も何か変わりがあれば連絡を頂くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の様子や希望、現状から身体、認知状況、家族の意向も含めアセスメントや毎月のモニタリングを実施している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	関係機関の他にも、ご家族からのお話を伺ったりして把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の体調やペース・希望に合わせて状況や、できること・できないことを把握し一緒に行なうようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	関わりの中で気付いたことを取りいれ、毎月のモニタリングをしながら、その都度本人の状態に合わせたサービスを提供できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のカンファレンス、モニタリングを行なっている。また、日々のミーティングや連絡ノートを通じて情報交換、意見交換をしてサービスの見直しをしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録を用いて、情報共有、見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	オムツサービスや生活保護など必要に応じての対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる演奏会や、消防署立ち会いのもと避難訓練など行なっている。	○	近隣の多くの方と関係を深めていけるよう、ボランティアや行事参加を呼びかけて、その機会を作っていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	要望がないため行なっていない。	○	要望があった際に即対応が出来るように努める。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議にて、グループホーム内の状況について報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力機関があり、定期的な訪問診療や、24時間連絡がとれる体制がある。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に関して相談できる医療や協力機関があり、それぞれの状態に合わせ相談することができ、受診など行なっている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的な訪問診療や健康管理記録を用いながら相談やアドバイスをもらっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関にグループホームでの生活の様子を口頭や添書にて情報を伝え、こまめに面会に行き本人や家族の希望を聞き、医療機関と話し合いを重ねている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	かかりつけ医や本人家族と十分に話し合い決めていくように努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	契約時に終末期の話をする他、状況の変化に応じて家族とかかりつけ医と共に、今後起こりえる事に関して相談や意向を確認し、取り組んでいる。	○	人生の最後をどのように迎えることが、その人にとって望んでいることなのか十分に話し合い理解していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>新しい環境での混乱防止のため、十分な話し合いと時間を作り、事前に家族や病院、ケアマネージャーなどとの情報交換をおこなっている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者の排泄や入浴では、できることは自分で行なってもらえるようにしながら確認するなど、声かけや介助に配慮するように心かけている。また、医療機関への受診の際には、待合室で個人ファイルを出したままにしない等、個人情報が漏れないようにしている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言葉以外に表情やしぐさ、生活暦などの情報も含め、希望に応えられるように本人や家族の意向を大切にしている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々の散歩や活動、休息、入浴時間など本人に確認し対応できるようにしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人と一緒に服を選んだり、希望によって理容店を決めたり、髪型を決めている。行事や外出の時もおしゃれをしたり、女性は化粧などしている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個人に合わせて何かを炒めてもらったり、盛り付けてもらうなど一緒に取り組んでいる。季節の食材を取りいれたり、できるだけ希望を聞きながら食事を楽しんでもらうようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の状況により制限されているものもあるが、医師に確認を取りながら提供している。果物の種類や飲み物の温冷などは希望を聞いて提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄リズムを確認しながら、自らトイレに向かうことが困難などの場合は声を掛けて誘導している。排泄表を確認しながら排泄状況を確認している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望する日や時間帯を確認しできるだけ希望に添えるようにし、最低でも週に2回入浴が出来るようにしている。また、体調不良などで入浴が出来ない場合には清拭や足浴を行ない気分転換や清潔が保てるようにしている。	○	楽しみが増えるよう、温泉などにも行く機会を作っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調や睡眠状況に合わせて日中に休息をとったり、夜に入床する時間もそれぞれだが、夜眠れない方には、日中の散歩や体操などで体を動かし生活リズムを作っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や本人の得意とすることから、食事の準備、洗濯物たたみ、雪かき、草刈り、畑仕事など季節に合わせてながら、役割をもってもらっているようにしている。	○	一人ひとりの、持っている能力を発揮できるように支援をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人がお小遣いなどお金を所持している場合は、小遣い帳と一緒に付けて管理している。本人のものなど一緒に買い物に行く機会を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、図書館など、できるだけ本人の希望に添えるよう行なっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お祭り、紅葉、正月など季節ごとの行事や家族の希望に合わせて支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話をかけることが難しくなっている方が多いが、希望時には職員が家族に電話をかけて本人に取り次いだりしている。また、手紙や年賀状を書く場面の時も、本人の状況に合わせて支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時ゆっくり過ごしてもらえる様にお茶を出し、本人の様子などを伝えて安心して過ごしてもらうようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	疑似体験の一日体験研修を行ない、入居者の立場になって過ごすことで、入居者の理解と身体拘束とは何かを考える機会を作り、研修後に報告会を実施することで職員全員でケアの見直しと学ぶ機会を設けている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	所在の確認など、個々の様子の把握、その時々に合わせて行動を見守ったり付き添っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室で過ごしている人へもお茶を持って訪室するなど、個々の過ごし方が感じられる所で記録を書くなどしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	活動でハサミや包丁を使うことを制限するのではなく、職員が付き添って行なっている。また、ハサミや包丁の使用後は事務所や台所の引き出しに片付けている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	勉強会や避難訓練を定期的実施して、事故防止に取り組んでいる。	○	緊急時の搬送先や、転倒、誤嚥など利用者それぞれの可能性が高い状況を想定して対応していく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	普通救命講習や、緊急時対応マニュアルがあり、消防署など外部からの指導も受けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的な避難訓練を行い、その際は近隣の方にも参加してもらえる様に呼びかけている。職員間の連絡網も用意している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	本人の様子や状況はその都度、家族にリスクも含めて報告し話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	顔色やしぐさ、表情、スキンシップから異変に気付けるようにし、職員間で情報の共有を行い、病院受診などの対応をしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服管理をおこない、変更時には申し送りや連絡ノートなどで全員に情報が伝わるようにしている。禁止食、副作用の確認もしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	必要に応じて下剤の内服も行なっているが、乳製品や食物繊維の多い食材を提供し、活動などで予防できるよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアや、夜間の義歯洗浄を行い、自分で行なわれる方も磨き残しの確認をしている。定期的な歯科健診も行なっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	既往や生活習慣に合わせて、水分、食事量を提供している。栄養士からアドバイスを受ける機会もあり指導を受けている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを活用し、手洗い、うがいや、手すり、テーブル、トイレなどの消毒を日中、夜間とも塩素系の消毒液を使って行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生管理マニュアルがあり、調理前は手洗いうがいの徹底、ノロウイルス対策として塩素系の漂白を用いている。台布巾、食器拭き、手拭の漂白はこまめにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	スロープがあり車椅子でも出入りしやすくなっている。季節ごとの飾り付けをしたり、照明も自動的に付くようになっている。玄関周りの汚れの確認や、冬期間はロードヒーティングの設備もあるが、雪かきをして出入りしやすいようにしている。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	日差しはカーテンを開閉して調節している。温度調整も暖房や窓の開閉、扇風機など季節に合わせて行なっている。トイレはリビングなど共有しているスペースから少し離れた場所にあり、音や臭いが漏れにくくなっている。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	リビングのソファで休まれている方がいたり、共有空間でありながらも思い思いに過ごせるようにしている。また、共有スペースの音や動きを感じながらも一人でくつろげる場所がある。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家族の協力の下、家具やベッドや布団・電気やカーテンなど使い慣れたものを使ってもらっている。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	空気の入れ替えや、暖房の調整、加湿器の使用など温室計を確認しながら調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりやエレベーターを設置しており、歩行が不安定であったり車椅子でも移動しやすいようになっている。	○	
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室にはそれぞれの写真と名前が入り口にあり、トイレ、浴室所にも表示を用意してある。カレンダーや時計の設置、外の様子も窓から見えやすいようになっている。	○	
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダに出て日光浴など外で過ごせるようになっており、ベランダの前にはホームの畑があり、職員と一緒に野菜など作物を作っている。	○	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul> <p>○ 日常の会話やしぐさ表情からそれぞれの思いや、希望に応えられるように努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul> <p>○ 何かの支援をするだけでなく、一緒にTVを見たりゆっくと話しをして過ごしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul> <p>○ 食事や睡眠、入浴などできるだけそれぞれのペース、生活スタイルに合わせて関わっている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul> <p>○ 利用者にとって職員は、安心できる存在であるよう努めている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul> <p>○ 状況に応じながら、外出できるように対応している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul> <p>○ 定期的な訪問診療や病気や怪我をした場合だけでなく、本人の不安に感じていることは、それに対応するようにしている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul> <p>○ 一日の生活リズムや時間は概ね決まっているが、本人の希望や体調に合わせて支援を提供している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul> <p>○ 本人の様子を伝えると共に、ご家族の抱えていることや不安なことは無いか聞きながら、関係を築くようにしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul> <p>○ 家族や友人だけではなく、見学者の受け入れ、子供たちが敷地内に虫取りに来ることもある。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている  <b>②</b>少しずつ増えている            ③あまり増えていない            ④全くいない</p> <p>○ ホームのことを知ってもらおうと共に、地域の行事に参加するだけでなく、ホーム内の行事にも参加を呼びかけている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が  <b>②</b>職員の2/3くらいが  <b>③</b>職員の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p> <p>○ 担当の利用者や係りを持ち、それぞれの意見を取り入れながら取り組んでいる。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が  <b>②</b>利用者の2/3くらいが  <b>③</b>利用者の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p> <p>○ 特に自分の思いを表現することが困難な方には、職員がそれに早く気付けるよう関わりを持って取り組んでいる。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が  <b>②</b>家族等の2/3くらいが  <b>③</b>家族等の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p> <p>○ 家族の思いや希望を聞き、それに応えるよう取り組んでいる。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

家庭的な雰囲気の中で生活してもらえようケアを提供し、利用者一人ひとりの力を最大限に発揮・活かせる様に心がけている。また、職員の勉強会や研修を設け、各職員と事業所がスキルアップできるように努めている。年中行事など、グループホーム内の様子も御家族や地域の人たちに伝え、行事の参加を呼びかけたり地域の行事に参加し交流を深めている。

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)